

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日(当事業年度の中間配当の予定はございません)
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ( <a href="http://www.fujipream.co.jp/">http://www.fujipream.co.jp/</a> )に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話0120-094-777(通話料無料)

## ご注意

- 1 株主様の住所変更、買取請求、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 2 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## フジプレミアムと社会を結ぶ情報誌

PRE【プレ】

フジプレミアムの「プレ」は「先駆ける」、「アム」は「存在」という意味が込められています。この「プレ」をタイトルにした株主通信は、株主の皆様へ適切な経営情報を先駆けてお届けし、フジプレミアムと社会との関わりを分かりやすくお伝えするとともに、当社が誇る技術や将来性などをご紹介してまいります。



特集

時代のニーズに応える事業展開

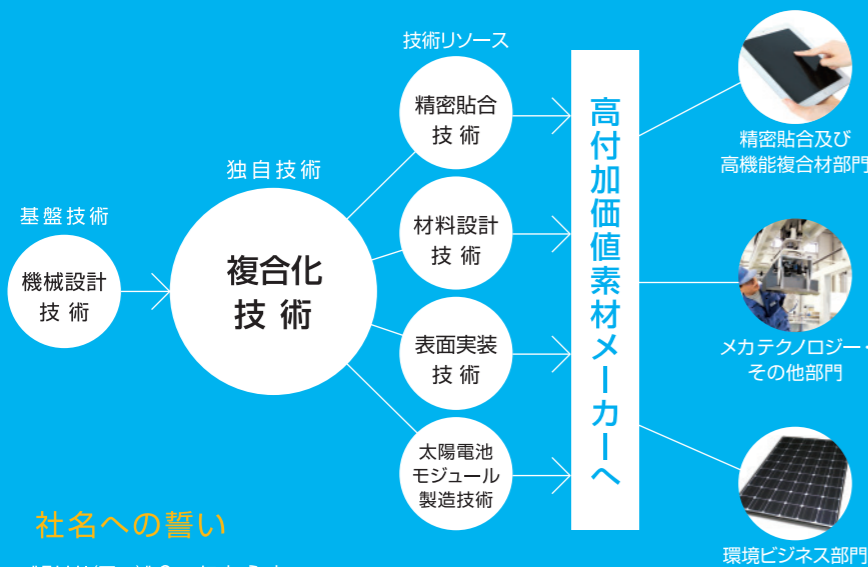
フジプレミアムを支える4事業の可能性

# 不可能への挑戦

フジプレミアムは「不可能への挑戦」を掲げ、未来を切り開く研究開発型企业です。

## 経営ビジョン

フジプレミアムは、精密貼合技術を活かし、新たな価値を創造する素材メーカーを目指します。



## 社名への誓い

"FUJI(不二)" 2つにあらず、  
"pre" 先駆けて、"am" 存在する企業でありたいと、  
常に「不可能への挑戦」を心がけています。

## 経営理念

「人」は「財」なり、「財」は「人」作りなり  
創意、継続は大いなる「財」なり  
自然は大いなる「恵」なり。  
全てに対して大いなる「感謝」

高度情報化  
社会

地球環境  
共生社会



光都工場

光都PV工場

100年先の暮らしを照らすため、自らに与えられた使命を果たす。  
「共存・共生・共産」の理念で、住みよい社会づくりを目指します。

複合化技術を活用し、市場に対し、新たな価値を提供し、  
先端技術で新たな市場を切り拓いていく。

株主、投資家の皆様には、益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素よりフジプレミアムグループの事業につきまして格別のご理解とご支援  
を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第36期(平成30年3月期)第2四  
半期報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社を取巻くビジネス環境は、企業収益や雇用環境が堅調に推移したこ  
とから、緩やかな回復基調が継続しております。

このような環境の中、当社グループの主力事業である精密貼合及び高機  
能複合材部門におきましては、国内外におけるディスプレイ市場は、高付加  
価値タイプのマーケットが成長、また、タッチパネル市場におきましては、中  
大型の静電容量方式の市場が拡大し、産業用分野や教育・医療分野、そし  
てアミューズメント分野等に用いられる用途が広がっております。このよう  
な市場の変化の中、精密貼合技術を始めとする複合化技術やメカトロニクス  
技術を活用し、新規生産設備の導入による生産の高度化を実施、更に、独自  
の技術を活かしたLED関連事業や車載関連ビジネス、そして新素材加工  
事業を推進し、新規ビジネスへの取組みを強化してまいりました。

環境ビジネス部門におきましては、OEM供給品の生産量の拡大、メンテ  
ナンス市場の開拓等を実施してまいりました。

今後、当社といたしましては、これらの複合化技術を活用し、先端技術で  
新たな市場を切り拓いてまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろ  
しくお願い申し上げます。

代表取締役社長 松本倫長



## フジプレミアムを支える4事業の可能性。

創立35年を迎えたフジプレミアム。常に先進を追求し、時代のニーズに合わせて進化と変化を繰り返してきました。

包装資材の販売会社をルーツに持ち、現在は精密貼合をコア技術に4つの事業を柱として展開。

各事業を先導する事業部長たちが、会社の強みと今後の展望についてご紹介します。



### コア技術の精密貼合を展開するファインテック事業部

フジプレミアムのコア技術である精密貼合。機能性素材を複合化することで新しい価値を生み出す加工技術です。中でもファインテック事業部はこの精密貼合をメインに取り扱っています。もともとは建材のラミネートからはじまったビジネスですが、光学機能性フィルムに対応し、近年ではPDP用光学フィルターをメインに量産していました。現在は、この技術を応用して新しい分野を切り拓くため、ディスプレイ関連と非ディスプレイ関連の二本軸での展開を進めています。

ディスプレイ関連では車載、医療、アミューズメントの3分野を中心に、長年培ってきた要素技術をより深く追求しています。車

載分野ならメーターパネルやカーナビなどのセンターインフォメーションディスプレイ、電子化したルームミラーなどに精密貼合が活かされています。医療分野は手術用モニター、診察用モニターなどがあり、近年は医療の進化により内視鏡手術に用いられる医療機器に付随したモニ



ファインテック事業部長  
玉田達哉

## ～さらなる発展を目指す、成熟からの飛躍～

ターが増加傾向にあります。マーケットの規模は大きくありませんが、ニッチ市場に貢献できるのも当社のコア技術の強みです。非ディスプレイ関連においては加飾フィルムなどの建築建材案件が中心ですが、東京オリンピックを契機にエレベーター・エスカレーターなどの産業用機器の増加が期待できます。

ディスプレイ・非ディスプレイ問わず、あらゆる分野においてデザインの自由度が高くなり、曲面に対して材料を複合化・一体化させる技術が求められています。曲面は平面に比べて高度な技術が必要となり、そこで当社の技術が活かされています。曲面への加工はおそらく3年後には主流な技術となるでしょう。当社としては早い段階から技術面と設備面を蓄積していこうと尽力しており、すでに多くの案件に取り組んでいます。



### 自動化・省人化を生み出すメカトロニクス事業部

コア技術の精密貼合を支えているのが加工設備です。当社の設備はメカトロニクス事業部による内製化を実現しています。この事業部はフジプレミアム創立時に立ち上げた機械事業部が前身となっており、包装資材から特殊装置まで多彩な機器や生産ラインを開発・製造してきました。

ものづくりの現場で人材不足が生じている今、当社はロボット

の活用による自動化と生産の効率化を重点施策に掲げています。2016年には電子部品やロボットを取り扱っている専門会社であるサンワテクノス株式会社と業務提携致しました。この業務提携により、当社の生産ラインの提案力・構築力とサンワテクノス株式会社のマーケティング力を融合させることで、あらゆる領域において「自動化・効率化・省人化」という価値を提供できます。すでに物流最大手企業様にはマテハン設備で当社技術が認められ、活かされています。今後、多方面で貼合技術に変わる新たなコアコンピタンスを獲得するための基盤を構築しています。

メカトロニクス事業部は個人個人の能力に依存する部分もあり、人材育成も重要なテーマとなっています。技術の育成には現場経験が求められますが、当社には社内設備を中心に多数の案件を経験する機会が用意されています。案件の増加は技術者の成長と直結しており、人材育成の下地が整っています。



メカトロニクス事業部長  
石黒尚之

## 信頼の日本品質を提供する ソーラープロセス事業部



取締役 営業本部長  
森田晃史

素材の複合化技術を環境分野に活かすため、2000年より太陽光発電システムの製造を開始しました。2012年には超軽量太陽電池モジュール「希」を開発。建物への重量負荷を軽減できるため、駅舎の屋根の上など

設置が困難とされていた場所へと用途を広げました。

太陽電池パネルのように短期間で構造の変化が見られない製品は、付加価値を生み出しにくいマーケットです。発電効率を上げるといふ地道な取り組みをしながら、パートナー企業を中心にOEMでの製造を進めています。発電効率は年間平均1~2%の向上を実現。OEMに関しては、日本のマーケットに向けた日本品質という付加価値を提供しています。今後は自動車のEV化に伴うインフラの整備、ゼロ・エネルギー・ハウスにおける創エネ・蓄エネ関連の製品、建材一体型の太陽電池など多様な分野に展開できる可能性を秘めています。当社としては時代のニーズに乗り遅れないよう民間企業や大学と連携して技術を高めていかなければなりません。



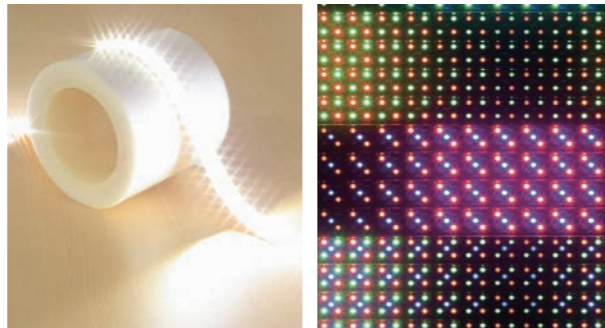
## フレキシブル基板にLEDを実装する 高度な技術が強みのSLB事業部

4つの事業で最も新しいのが2014年より生産を開始しているSLB事業部です。ファインテック事業部で扱ってきた精密貼合技術を応用し、薄くて柔らかい基板にLEDの直接実装を行っています。主にLEDを用いた照明や光源を生産していますが、フレキシブル基板へのLEDの実装加工は高度な技術が求められ、そこに当社の経験とノウハウが活かされています。

SLB事業部は受託生産のため事業展開の自由度は高くありません。しかし、本年度には1,300坪のクリーンルームを備える光都新工場が完成し、より高品質でより最先端のLED関連の案件に対応できる環境が整いました。将来的にはLEDの実装と精密貼合を同時に活用した構成部材への対応など、ファインテック事業部との接点を見出すことで発展性のある事業と言えます。



SLB事業部長  
安田康良



～さらなる発展を目指す、成熟からの飛躍～

## 成熟期から変革期を迎え、 4事業の連携でさらなる飛躍を

現在のフジプレミアムを支える4つの事業は、各々の強みを活かした展開で様々な付加価値を提供しています。今後は4事業の連携を深めることが課題です。先述したディスプレイ関連に加えて、EVの普及に伴う太陽光発電システムや、フレキシブル基板を用いて光源としてのLEDを曲面・異形へ応用するニーズの高まり



代表取締役専務  
名村信彦

など、車載においてはその可能性を十二分に秘めているのではないのでしょうか。それら最先端の案件に応えるため、加工設備も最先端のクオリティを備えなければなりません。現在は自社工場の生産が主となりますが、今

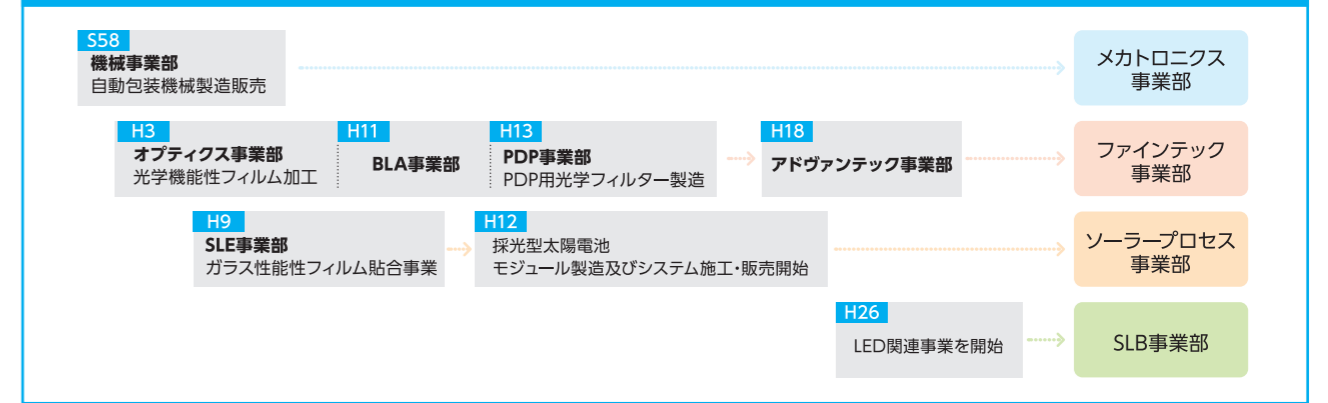


代表取締役社長  
松本倫長

後は全て自社工場内だけでもものづくりを行うべきかどうかとも検討課題となってきます。

課題があるということは、成長の余地があると言えます。フジプレミアムは今、成熟期から飛躍する変革期を迎えています。ただ、すべての事業にルーツがあり、このルーツを見失ってはけません。地盤が整っているからこそ、技術、事業スキーム、人材育成など多岐に渡り進化を追求できるのです。これからも常に時代のニーズを捉えながら、次代を見つめることで先進的な事業を展開していくことが当社の使命であり、存在意義でもあります。

### 時代のニーズに対応した「柔軟な事業展開」の変遷



## フジプレアム海外実習生入社

2017年10月26日、フジプレアムに新しい仲間が入社しました。名前は、ソンさん、リンさん、フィンさん、フォンさん、ヒェウさん、ハイさんの6名です。お察し通り、彼らは、ベトナムからの海外実習生です。昨年10月から海外実習生制度の導入を手掛けつつ、関西技術協力センター様にご協力頂き、本年2月にベトナム・ハノイにて彼ら6名と出会いました。彼らは大きな声で『こんにちは!』と日本語で元気良く私共を出迎えてくれ、力強い意志で自己PRを檄唱してくれました。



彼らの自主性、行動力、学びの姿勢、そして家族愛は、フジプレアムの発展にとって、大きな存在になると思われます。同時にこの3年間の実習が成功となるよう心がけて参ります。わが国、日本も少子高齢化から近い将来労働力不足が懸念されています。このような制度から両国がWIN WINの関係になれるようフジプレアムも社会に貢献しつつ発展し続けて参ります。

## トピックス Topics

### TOPICS 01 第35回定時株主総会を開催

第35回定時株主総会を下記の通り開催いたしました。  
【日時】平成29年6月29日(木) 10:00～  
【会場】フジプレアム 本社ビル4階 大会議室



### TOPICS 02 第26回フジプレアム株式会社納涼祭開催

8月5日(土)に第26回フジプレアム納涼祭を開催しました。大白書中学校吹奏楽部、バンドによる演奏、リフティングパフォーマンス、女子サッカーチーム「ASハリマアルビオン」によるサッカーイベント、さらに事業部対抗ゲーム、抽選会など多くの地域住民の方々にご参加いただき、楽しんでいただくことが出来ました。



2017 6 June 7 July 8 August 9 September 10 October

### TOPICS 03 「西播磨ふれあいフェスティバル」へブース出展

県内の各地域持ち回りで開催している「ふれあいフェスティバル」。今年はまちびらき20周年を迎える播磨科学公園都市を会場に10月28日(土)・29日(日)に開催されました。フジプレアムは地元企業として事業紹介のブースを出展し、ステージやグルメイベントで盛り上がるなか、様々な客層の方々にフジプレアムをPRする絶好の機会となりました。



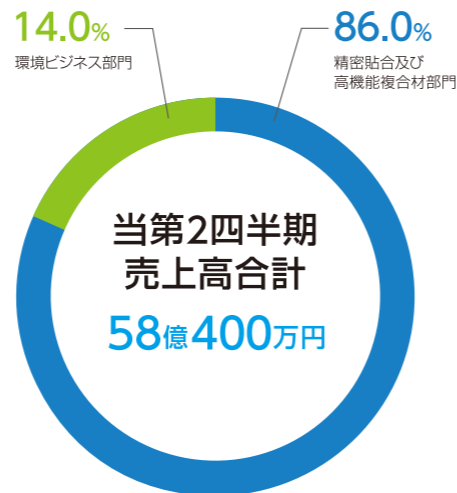
# Segment Information

## 親会社株主に帰属する四半期純利益1億7,400万円確保

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、地政学的リスクが存在するものの、企業収益や雇用環境が堅調に推移したことから、緩やかな回復基調が継続しております。

このような環境の中、当社グループの主力事業である精密貼合及び高機能複合材部門におきましては、高付加価値マーケットに対応すべく、生産技術の高度化とLED関連事業、メカトロニクス事業、新素材加工事業への取組みを強化しました。一方で、ディスプレイ市場での販売価格の低下の影響を受け、また、環境ビジネス部門におきましては、OEM供給品の生産量拡大に注力いたしました。国内再生可能エネルギー市場における制度の変更の影響を受ける状況となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高5,804百万円(前年同四半期比6.9%増)、営業利益255百万円(同17.3%減)、経常利益268百万円(同3.2%減)を計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は174百万円(同16.7%増)となりました。



### 精密貼合及び高機能複合材部門



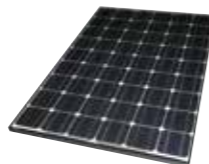
第36期 第2四半期売上高  
49億9,300万円

### 営業利益 2億5,300万円

国内外におけるディスプレイ市場は、高付加価値タイプのマーケットが成長、また、タッチパネル市場におきましては、中大型の静電容量方式の市場が拡大し、産業用分野や教育・医療分野、そしてアミューズメント分野等に使われる用途が広がっております。しかしながら、ディスプレイの販売価格が低下し、その影響を受ける状況となりました。このような市場の変化の中、精密貼合技術やメカトロニクス技術を活用し、新規生産設備の導入による生産の高度化を実施、更に、独自の技術を活かしたLED関連事業や車載関連ビジネス、そして新素材加工事業を推進し、新規ビジネスへの取組みを強化してまいりました。

この結果、売上高4,993百万円(前年同四半期比31.0%増)、営業利益253百万円(同4.4%減)となりました。

### 環境ビジネス部門



第36期 第2四半期売上高  
8億1,100万円

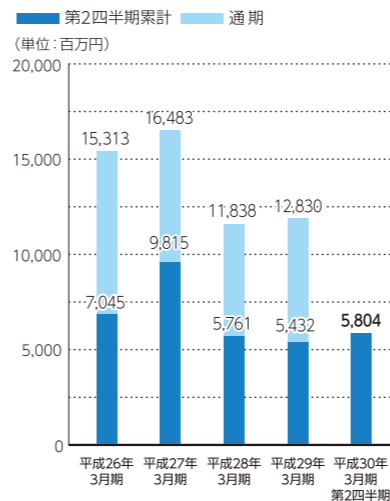
### 営業損失 79万円

太陽電池の国内市場は、固定価格買取制度の見直しと買取価格の低下、また、海外生産品による価格競争の激化により、産業用市場の環境が、販売価格の低下等厳しさを増しました。このような状況に対応すべく、OEM供給品の生産量の拡大、メンテナンス市場の開拓等の施策を実施してまいりました。

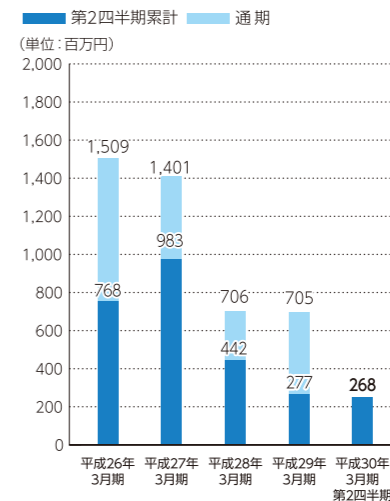
この結果、売上高811百万円(前年同四半期比50.0%減)、営業損失0百万円(前年同四半期は35百万円の営業利益)となりました。

# Financial Highlight

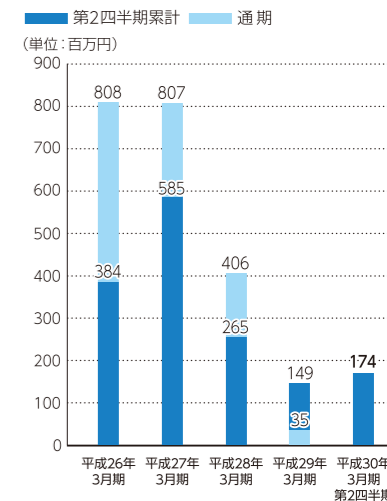
## 売上高



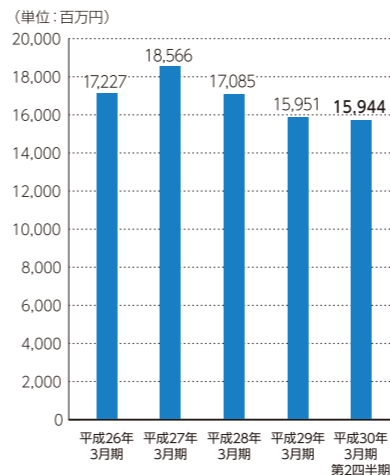
## 経常利益



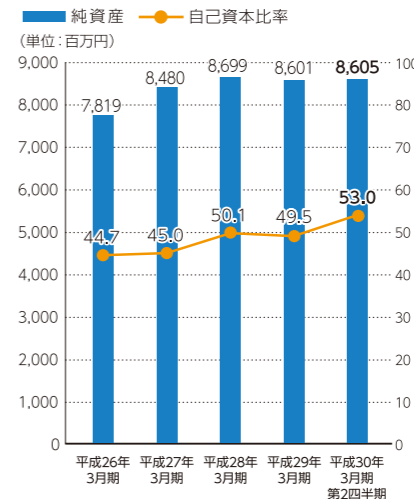
## 親会社株主に帰属する純利益



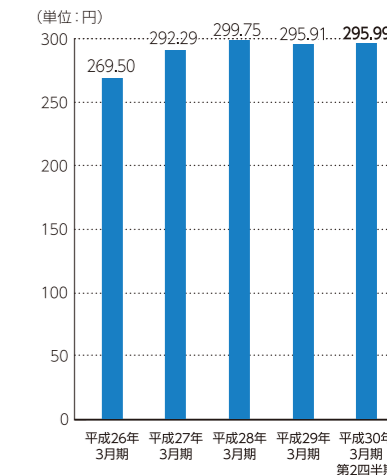
## 総資産



## 純資産・自己資本比率



## 一株当たり純資産



## 第2四半期 連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成29年9月30日)	前連結会計 年度末 (平成29年3月31日)
流動資産	8,599,930	10,183,422
現金及び預金	4,733,073	5,278,907
受取手形及び売掛金	1,681,481	2,256,601
商品及び製品	514,253	526,387
仕掛品	713,395	951,643
原材料及び貯蔵品	778,149	791,990
その他	179,577	377,891
固定資産	7,344,232	6,902,027
有形固定資産	6,973,811	6,530,412
無形固定資産	4,070	3,916
投資その他の資産	366,349	367,699
資産合計	15,944,162	17,085,450

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成29年9月30日)	前連結会計 年度末 (平成29年3月31日)
流動負債	5,132,947	6,645,228
支払手形及び買掛金	1,151,768	1,773,562
短期借入金	2,000,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	1,742,126	2,001,670
未払法人税等	20,528	157,970
賞与引当金	11,451	13,832
その他	207,073	698,192
固定負債	2,205,793	1,838,463
長期借入金	2,140,528	1,771,450
その他	65,265	67,013
負債合計	7,338,740	8,483,692
株主資本	8,403,771	8,400,701
資本金	2,000,007	2,000,007
資本剰余金	2,440,803	2,440,803
利益剰余金	4,826,851	4,823,780
自己株式	△863,890	△863,890
その他の包括利益累計額	54,236	54,903
非支配株主持分	147,413	146,153
純資産合計	8,605,422	8,601,758
負債純資産合計	15,944,162	17,085,450

## 第2四半期 連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで)
売上高	5,804,920	5,432,542
売上原価	5,128,548	4,648,150
売上総利益	676,372	784,392
販売費及び一般管理費	420,860	475,373
営業利益	255,511	309,019
営業外収益	20,058	25,556
営業外費用	7,187	57,181
経常利益	268,382	277,393
特別損失	—	17,544
税金等調整前四半期純利益	268,382	259,849
法人税、住民税及び事業税	10,450	102,489
法人税等調整額	82,151	3,941
四半期純利益	175,780	153,418
非支配株主に帰属する 四半期純利益	1,260	3,825
親会社株主に帰属する 四半期純利益	174,520	149,592

## 第2四半期 連結包括利益計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで)
四半期純利益	175,780	153,418
その他の包括利益	△666	24,382
その他有価証券評価差額金	△2,773	5,540
為替換算調整勘定	2,106	18,842
四半期包括利益	175,113	177,801

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	78,663	954,747
投資活動による キャッシュ・フロー	△563,347	△488,053
財務活動による キャッシュ・フロー	△62,526	△1,384,172
現金及び現金同等物に係る 換算差額	1,376	4,617
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△545,834	△912,861
現金及び現金同等物の 期首残高	5,228,907	5,666,934
現金及び現金同等物の 四半期末残高	4,683,073	4,754,073

# Profile

## 会社概要

(平成29年9月30日現在)

商号	フジプレミアム株式会社 Fujipream Corporation(英)
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本倫長
資本金	2,000百万円
事業内容	精密貼合及び高機能複合材関連事業 環境ビジネス関連事業 他
従業員数	235名(連結、臨時雇用を含む)
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場／研究所／PV工場 東京営業本部
連結対象となる子会社	フジプレ販売株式会社(設立:平成13年4月) 上海不二光学科技有限公司(設立:平成15年9月)
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行／みずほ銀行

## 取締役及び監査役

(平成29年9月30日現在)

代表取締役会長	松本 實藏
代表取締役社長	松本 倫長
代表取締役専務	名村 信彦
取締役	木村 裕史(社外)
取締役	森田 晃史
常勤監査役	牛尾 哲之
監査役	中川 康徳(社外)
監査役	橋場 誉司(社外)

※代表取締役会長 松本實藏は、平成29年11月1日付で代表取締役会長を辞任し、会長に就任いたしました。

## 株式の分布状況

(平成29年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	4,809名

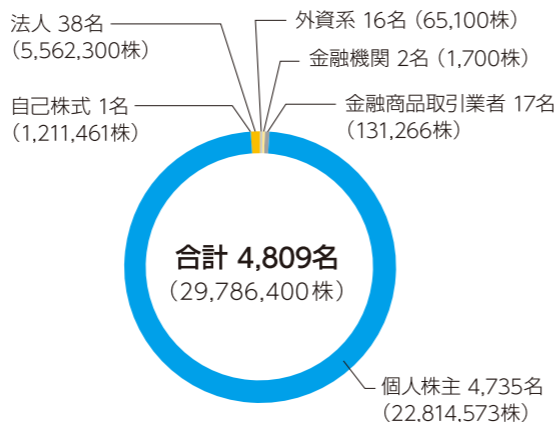
## 大株主の状況

(平成29年9月30日現在)

松本 實藏	11,705,700株
松本 倫長	2,441,400株
松本 庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
日亜化学工業株式会社	1,425,000株
フジプレミアム株式会社	1,211,461株
旭硝子株式会社	936,000株
リンテック株式会社	936,000株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
松本 春代	360,000株

## 株式分布状況

(平成29年9月30日現在)



播磨に生きる人に出会う

# 播磨人

はりまびと

Vol.2 洋画家 瀧本周造さん

【たきもと・しゅうぞう】兵庫県出身。二紀会委員、日本美術家連盟会員。

### 播磨人とは？

播磨を拠点に活躍する職人やアーティストの多くは、全国や世界へと播磨文化の魅力を発信しています。地域を愛し、文化を継承する人たちとの出会いをお届けします。



## 芸術とは、自己の内面を描き出すこと。

姫路市内に佇む瀧本周造さんのアトリエ(兼自宅)には、自身の作品だけでなく、尊敬するスペイン画家の絵画が飾られています。圧倒的な存在感を放つ具象画(写実)に定評があり、数々の受賞歴を誇ります。20歳頃から独学で絵画技術を磨き、1989年に姫路市文化センターで開催された「瀧本周造展」で大きな注目を集めます。姫路にある画廊等から「絵を描くことだけに集中しなさい」と言われて仕事を辞め、画家として本格的に歩みはじめます。油絵が主ですが、水彩絵の具、クレパス、パステルで描くこともします。画風や表現は年代によって変化してきましたが、変わらないものもあります。「芸術とは自分の内面的な表現。天地創造や人間のどん欲さなど描きたいと感じたものを描き続けてきました」

2002年、瀧本さんは文化庁の特別派遣芸術家在外研修員としてスペインのマドリッドへ渡った。毎日のようにプラド美術館へ通い様々な絵画を分析研究する日々を過ごしました。「マドリッドは人情味があり、いい意味でほこりっぽいというか味わいのある街でした。姫路と似ており、ふるさとのような親しみを感じました」。帰国後は創作活動に励む傍ら、芸術文化の素晴らしさを広く伝えるために絵画教室で指導するなど活動の幅を広げています。瀧本さんの絵画は深く、濃く、それでいてやさしさを感じる。姫路という地に染み付いた人情味が、筆先から伝わっているのかもしれません。

「瀧本周造画集」

### 受賞歴

1978年	兵庫県展 兵庫県立美術館
1982年	二紀展 奨励賞
1989年	第25回姫路地方文化団体連合協議会 姫路文化賞 新人賞
1990年	姫路市文化芸術賞 芸術年度賞
1991年	第45回二紀展 同人賞
1992年	第2回花の美術大賞展 大賞
1998年	第52回二紀展 同人優賞
2004年	平成15年度芸術文化団体 半どんの会文化賞 現代芸術賞
2008年	平成20年たつの市民表賞 市民特別賞
2010年	第32回姫路市芸術文化賞 芸術文化賞

